

大阪経済の情勢

(平成25年10月指標を中心に)

平成 25 年 12 月
大阪府商工労働部
(大阪産業経済リサーチセンター)

「大阪経済は、着実に持ち直している」

需要面では、個人消費は持ち直している。家電販売額は減少したが、大型小売店販売額、コンビニ販売額、新車販売台数は増加した。家計消費支出(近畿)は増加。投資は持ち直しの動きがみられる。住宅投資は増加、非居住用建設投資は減少した。公共投資は増加。輸出は持ち直し傾向にある。輸出額は8ヶ月連続で増加し、主要国向けではすべての地域で増加。輸入額は10ヶ月連続の増加。取扱貨物量は、関空は減少し、大阪港は増加。

供給面では、生産動向は持ち直している。大阪府(9月)は、生産、出荷ともに上昇。近畿の生産(9月)は低下、全国の生産(10月)は上昇。在庫循環は意図せざる在庫減局面。雇用は緩やかに改善している。所定外労働時間は増加し、近畿の失業率は改善。有効求人倍率、新規求人倍率は、ともに上昇。倒産は、件数は悪化、負債金額は改善。

先行きについては、景気動向指数(先行)は低下。今後は、海外経済の動向や、原材料価格、消費者物価の動向について、引き続き注意が必要。

		需要							
		消費				投資		貿易・貨物	
	総合 一致CI(大阪)	大型小売店 販売(大阪)	コンビニ 販売(近畿)	家電販売 (近畿)	新車販売 (大阪)	新設住宅着 工(大阪)	建築物着工 (大阪)	輸出 (近畿)	関空取扱 貨物量
10月		↑	↑	↓	↑	↑	↓	↑	↓
9月	↓	↑	↑	↓	↑	↑	↑	↑	↓

		供給				その他	
		生産		雇用		倒産	観光
	生産指数 (大阪)	生産指数 (全国)	有効求人倍 率(大阪)	失業率* (近畿)	倒産件数* (大阪)	関空外国人 旅客	
10月		↑	↑	↑	↓	↑	
9月	↑	↑	→	↑	↓	↑	

※前年同月と比較し、上向き矢印は「景況改善」、下向き矢印は「景況悪化」。ただし、一致CI、生産指数、有効求人倍率は季節調整済みのため、前月との比較。失業率と倒産件数は、減少・低下が景況改善となり、上向き矢印となる。

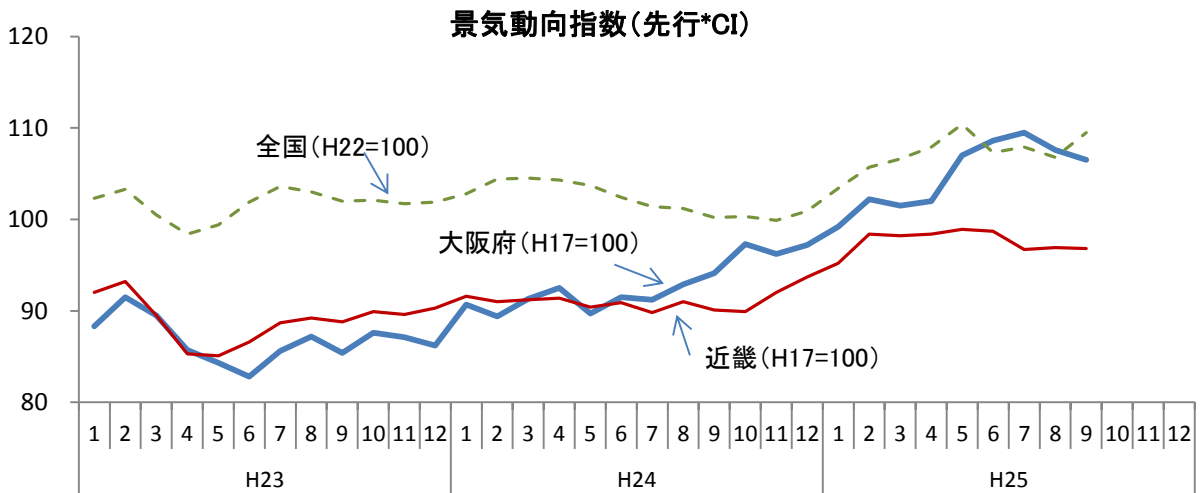
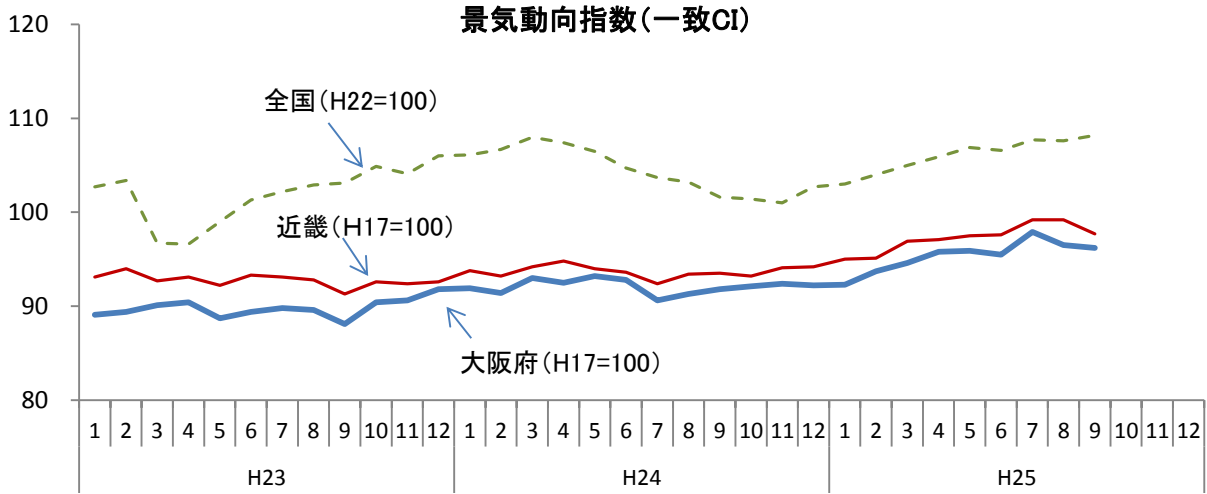
(参考)他機関の総括判断

	前回(25年10月公表分) (25年8月指標中心)	今回(25年11月公表分) (25年9月指標中心)
内閣府 「月例経済報告」	景気は、緩やかに回復しつつある。	景気は、緩やかに回復しつつある。
近畿経済産業局 「近畿経済の動向」	近畿地域の経済は、持ち直している。	近畿地域の経済は、持ち直している。
日本銀行大阪支店 「近畿地域金融経済概況」	近畿地域の景気は、緩やかに回復している。	近畿地域の景気は、緩やかに回復している。

※以下、Pは速報値を表す

[総合]

○景気動向指数(CI)【大阪府(9月)は一致CI、先行CIともに低下。近畿(9月)は一致CI、先行CIともに低下。大阪府(一致CI)では、主に「生産財出荷指数」「関西大口電力電力使用量」が低下に寄与。全国(9月)の一致は上昇。】



(資料)大阪産業経済リサーチセンター「景気動向指数」、内閣府「景気動向指数」
 ※先行CIは、3ヶ月から半年程度、景気に先行する指標で構成されている。

一致CI

	H25年8月	9月	10月
大阪府	96.5	P 96.2	
近畿	99.2	P 97.7	
全国	107.6	108.4	

先行CI

	H25年8月	9月	10月
大阪府	107.6	P 106.5	
近畿	96.9	P 96.8	
全国	106.8	109.2	

一致CIの個別系列の寄与度*(大阪府、9月速報)

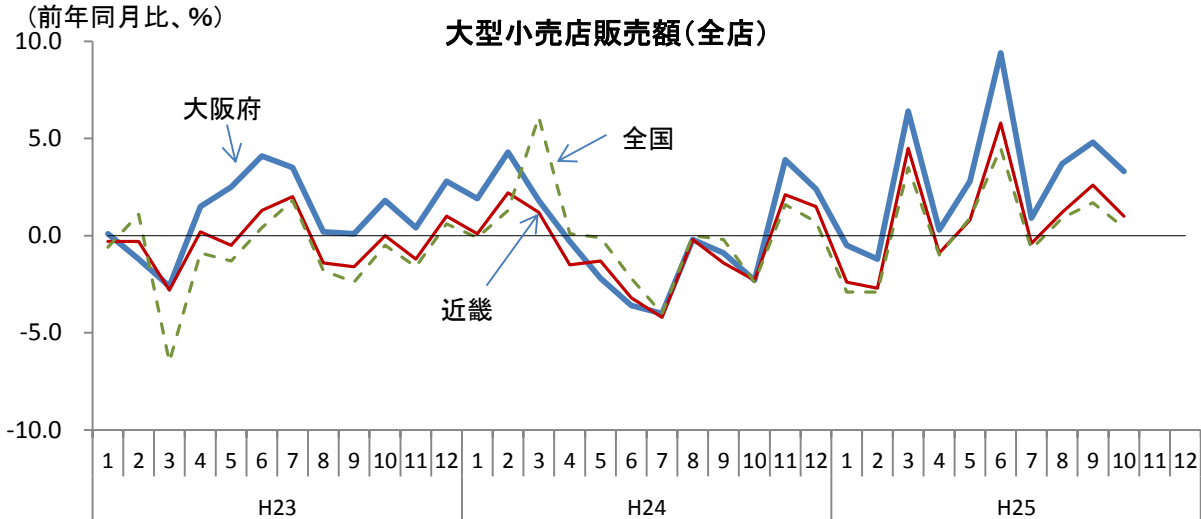
百貨店売場面積当たり販売額	大阪税関管内輸入通関額	製造工業生産指数	生産財出荷指数	関西大口電力使用量(合計)	有効求人倍率	所定外労働時間指数(製造業)
0.04	0.09	0.15	▲0.52	▲0.39	▲0.05	0.32

※寄与度とは、CIの前月からの変化が、CIを合成する個別系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

[需要] 消費

個人消費は持ち直している。家電販売額は減少したが、大型小売店販売額、コンビニ販売額、新車販売台数は増加した。家計消費支出(近畿)は増加。

○大型小売店販売額(全店)【8ヶ月連続の増加。百貨店販売額は12ヶ月連続の増加。】



(資料)近畿経済産業局「大型小売店販売状況」、経済産業省「商業販売統計」

大型小売店販売額(全店)

		H25年8月	9月	10月
販売額(億円)	大阪府	1,352	1,323	P 1,397
前年比(%)	大阪府	3.7	4.8	P 3.3
	近畿	1.2	2.6	P 1.0
	全国	0.9	1.7	P 0.4

大型小売店販売の商品別の主な増減

(大阪府、全店、前年同月比(%)、10月速報)

増加	身の回り品(11.8)、 家具・家電・家庭用品(7.3)、 飲食物品(5.5)、 衣料品(1.1)、
減少	食堂・喫茶(▲4.7)

百貨店(大阪府)

		H25年8月	9月	10月
販売額(億円)		631	646	P 703
前年比(%)		8.3	8.6	P 5.7

スーパー(大阪府)

		H25年8月	9月	10月
販売額(億円)		721	677	P 694
前年比(%)		▲0.0	1.5	P 1.0

大阪府内大型小売店へのヒアリングより(10月)

10月は、前半は高気温が続き、ファッション関連など秋冬商材の動きが鈍化した。後半は気温が急落して紳士スーツ・ジャケット、婦人ドレスなどの秋物が動き始めるも、台風などの天候不順もあって前半の落ち込みをカバーできなかった。

一方、冷蔵庫や洗濯機など高機能の大型家電が好調のほか、天候に左右されない高級品も、時計や宝石などが引き続き伸びている。

なお、おせち料理の予約状況は、前年実績に対して堅調に推移している。

○コンビニエンスストア販売額(全店)【近畿は8ヶ月連続の増加。】

		H25年8月	9月	10月
販売額(億円)	近畿	1,298	1,191	P 1,230
前年比(%)	近畿	3.8	3.9	P 5.3
	全国	4.3	3.8	P 4.6

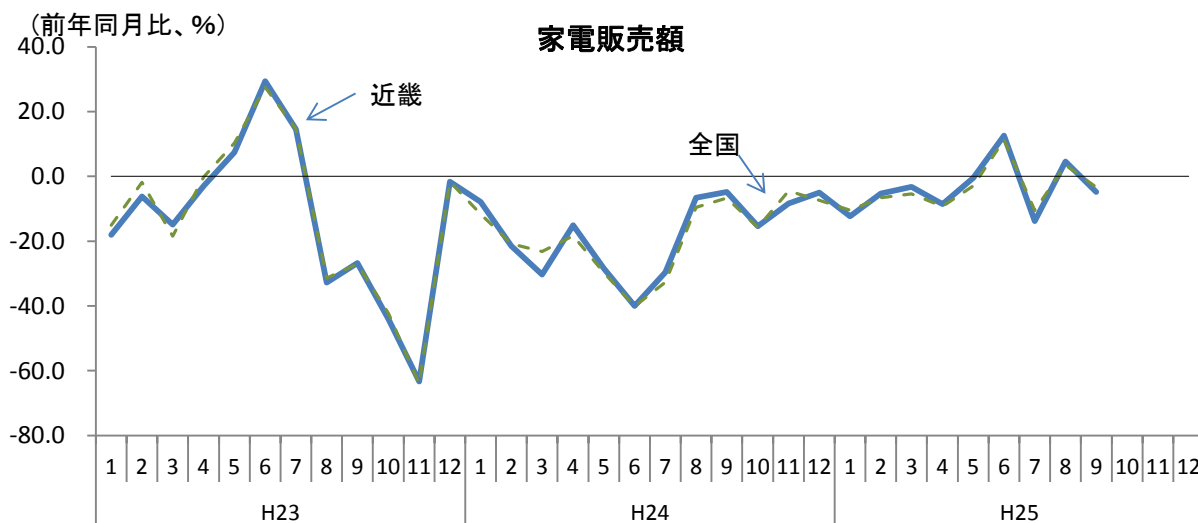
○家計消費支出【近畿は3ヶ月連続の増加。】

		H25年8月	9月	10月
円	近畿	330,789	299,304	327,567
前年比(%)	近畿	10.6	10.5	11.0
	全国	0.6	5.2	0.4

(資料)総務省統計局「家計調査」 ※二人以上の世帯うち勤労者世帯、一世帯当たりの名目。

[需要] 消費

○家電販売額【近畿(9月)は2か月ぶりの減少。「パソコン」「エアコン」などが前年を下回った。】



(資料) 近畿経済産業局「近畿経済の動向」

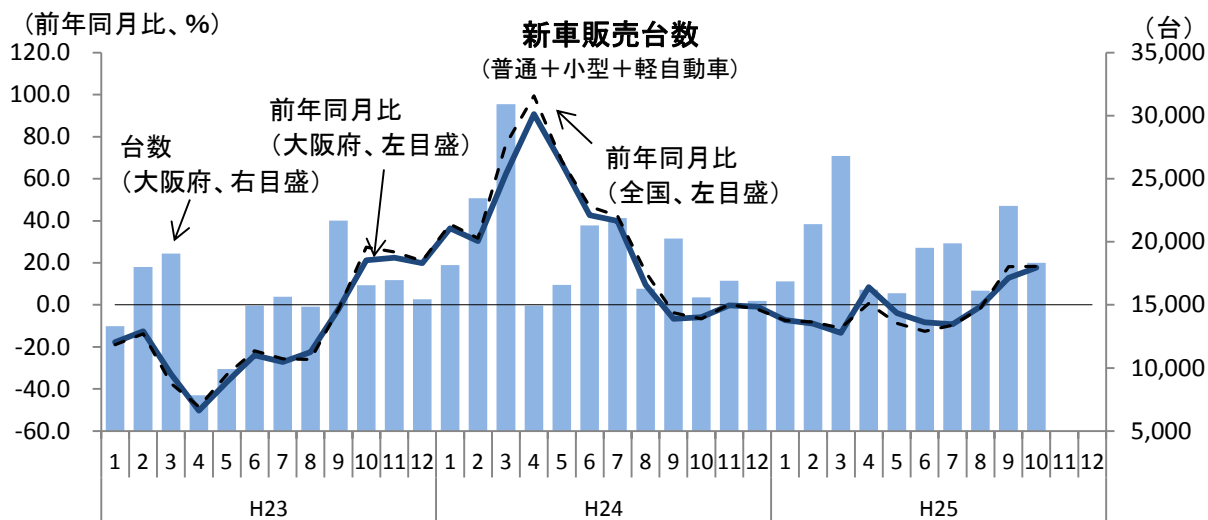
※平成23年4月分よりデータ集計対象企業が変更されたため、前後のデータと連続しない。

商品別の主な増減(近畿、9月)

		H25年8月	9月	10月
前年比 (%)	近畿	4.4	▲4.8	
	全国	3.3	▲3.3	

「デジタルカメラ」(前年同月比5.8%増)が前年を上回ったものの、「パソコン(本体)」(同8.1%減)、「エアコン」(同10.5%減)などが前年を下回った。

○新車販売台数【2ヶ月連続の増加。】



(資料) (一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会

		H25年8月	9月	10月
販売額(台)	大阪府	16,135	22,849	18,339
前年比 (%)	大阪府	▲0.9	12.8	17.7
	全国	▲1.6	18.1	18.4

車種別の増減

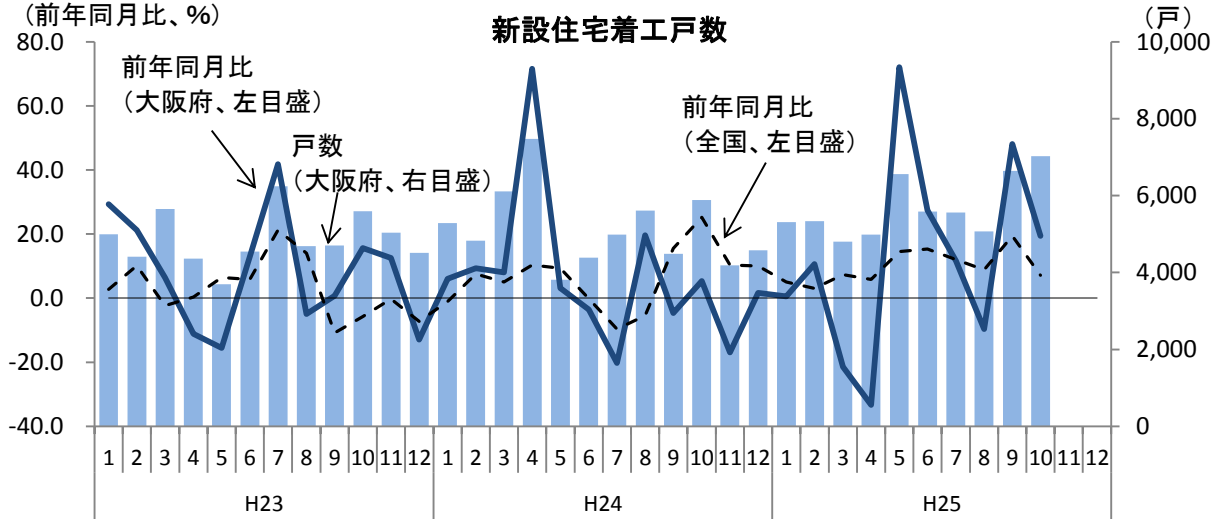
(大阪府、前年同月比(%)、10月)

普通車	小型車	軽自動車
31.5	18.4	1.6

[需要] 投資

投資は持ち直しの動きがみられる。住宅投資は増加、非居住用建設投資は減少した。公共投資は増加。

○新設住宅着工戸数【2ヶ月連続の増加。】

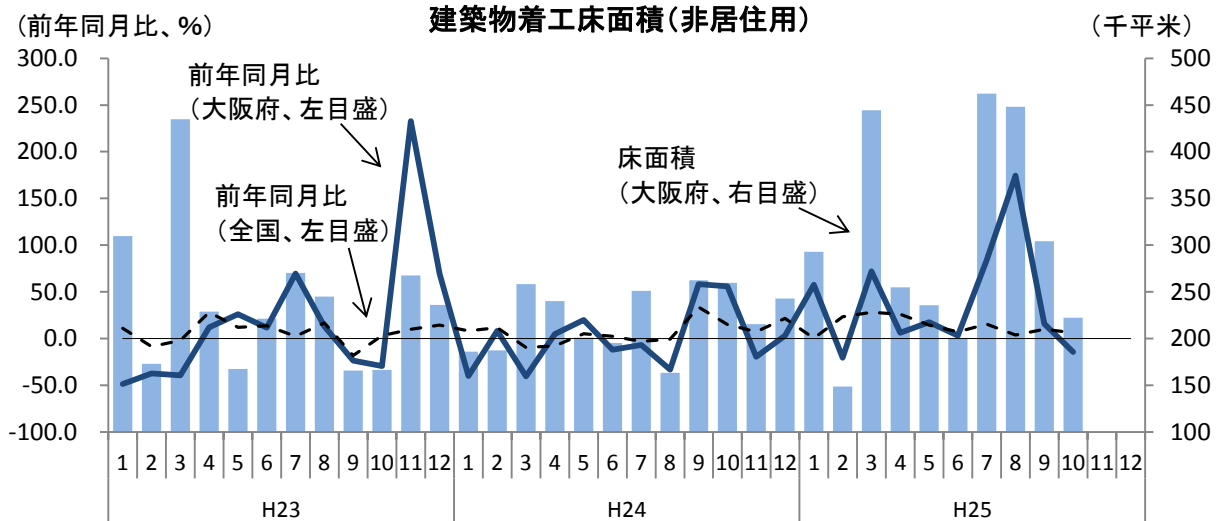


(資料)国土交通省「住宅着工統計」

		H25年8月	9月	10月
戸数	大阪府	5,069	6,639	7,027
前年比 (%)	大阪府	▲9.6	48.1	19.4
	全国	8.8	19.4	7.1

利用者関係別の増減 (大阪府、前年同月比(%)、10月)		
持家	貸家	分譲
3.5	48.3	▲2.3

○建築物着工床面積(非居住用)【9ヶ月ぶりの減少。「不動産業用」、「運輸業用」などが減少。】



(資料)国土交通省「建築着工統計」

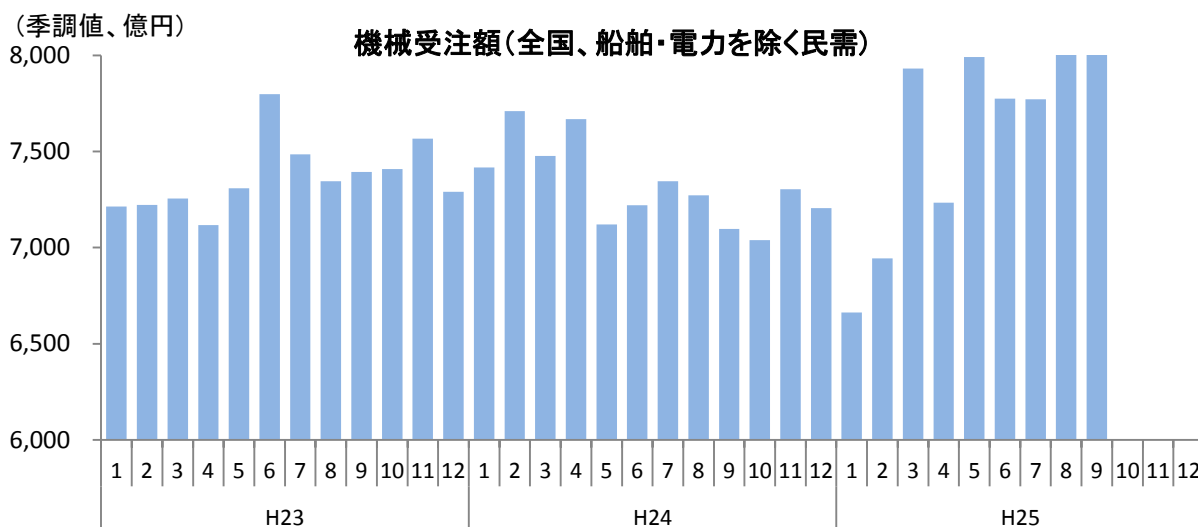
		H25年8月	9月	10月
千m ²	大阪府	448	304	222
前年比 (%)	大阪府	174.3	15.9	▲14.5
	全国	3.7	9.8	6.0

着工床面積の主な増減 (大阪府、前年同月比の寄与度※(%)、10月)	
増加	その他のサービス業(5.2)、 卸売業・小売業(4.7)
減少	不動産業(▲16.8)、運輸業(▲7.2)

※寄与度とは、全体の増減率の要因として、各業種の増減がどの程度貢献しているのかを表す数値。

【需要】 投資

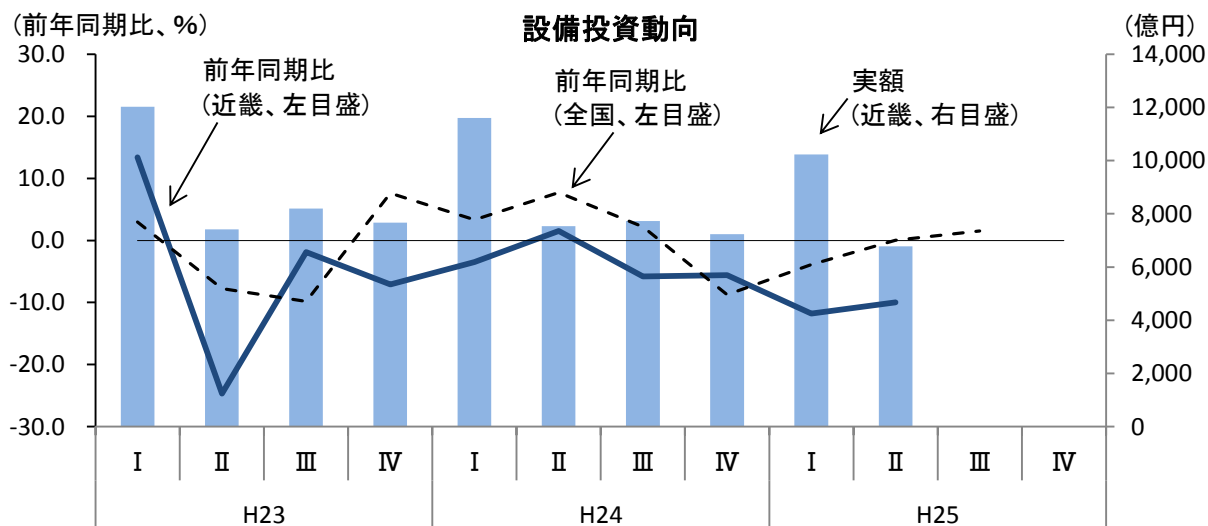
○機械受注額【9月(全国)は減少。「製造業」は増加したが、「非製造業」は減少。】



(資料)内閣府「機械受注統計調査」

	H25年8月	9月	10月
全国(億円)	8,193	8,021	

○近畿の設備投資動向【7~9月期の全国は増加。「製造業」は減少、「非製造業」は増加。】



(資料)近畿財務局「法人企業統計」、財務省「法人企業統計」

※資本金10億円以上、全産業(金融・保険業を除く)。ソフトウェアを含む設備投資。

		H25年1~3月	4~6月	7~9月
億円	近畿	10,237	6,778	
前年同期比 (%)	近畿	▲11.8	▲10.0	
	全国	▲3.9	0.0	1.5

○公共工事請負金額【7ヶ月連続の増加。】

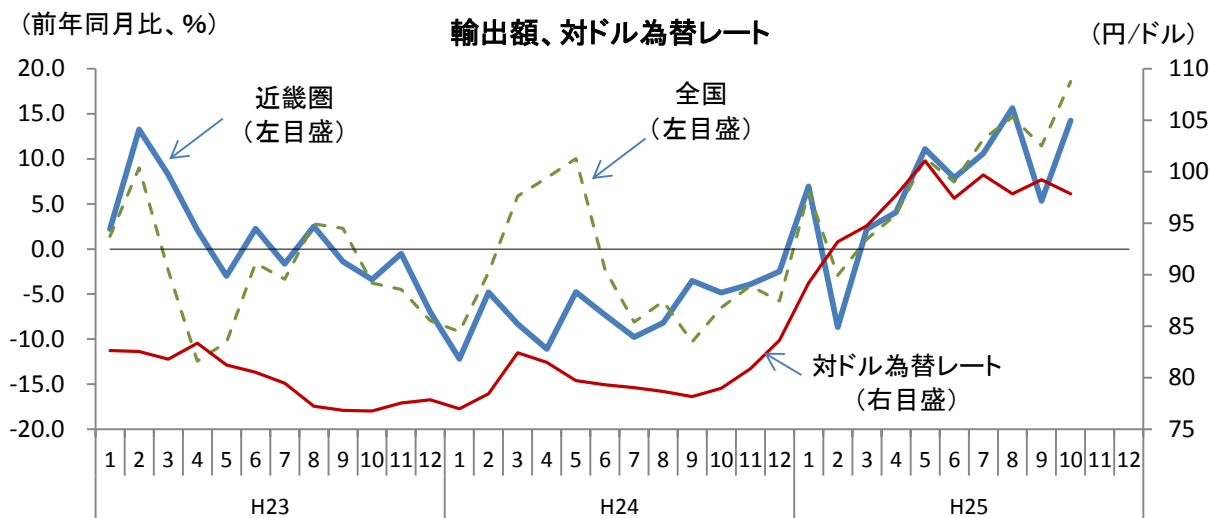
		H25年8月	9月	10月
億円	大阪府	266	356	347
前年比 (%)	大阪府	19.8	38.8	6.5
	全国	7.9	29.4	3.5

(資料)西日本建設業保証(株)「公共工事前払保証統計」

[需要] 貿易・貨物

輸出は持ち直し傾向にある。輸出額は8ヶ月連続で増加し、主要国向けではすべての地域で増加。輸入額は10ヶ月連続の増加。取扱貨物量は、関空は減少し、大阪港は増加。

○輸出額【8ヶ月連続の増加。「鉄鋼」、「原動機」などが増加。主要国・地域向けでは、すべての地域で増加。】



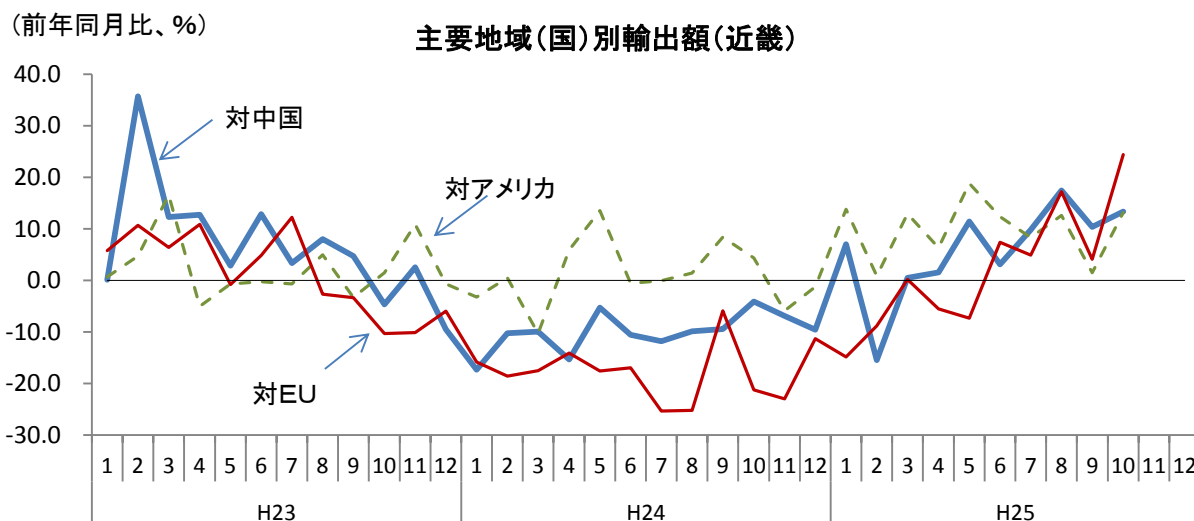
(資料) 大阪税関「貿易統計」、日本銀行「時系列統計」

※対ドル為替レートは、東京インターバンク相場、ドル・円、スポット、中心相場/月中平均。

		H25年8月	9月	10月
輸出額(億円)	近畿	12,567	12,544	P 12,847
前年比 (%)	近畿	15.7	5.3	P 14.3
	全国	14.6	11.5	P 18.6
為替レート(円/ドル)		97.87	99.24	97.85

品目別の主な増減
(近畿、前年同月からの増減額順、10月)

増加	鉄鋼、原動機、半導体等電子部品
減少	金属加工機械、ポンプ及び遠心分離機、ガラス及び同製品



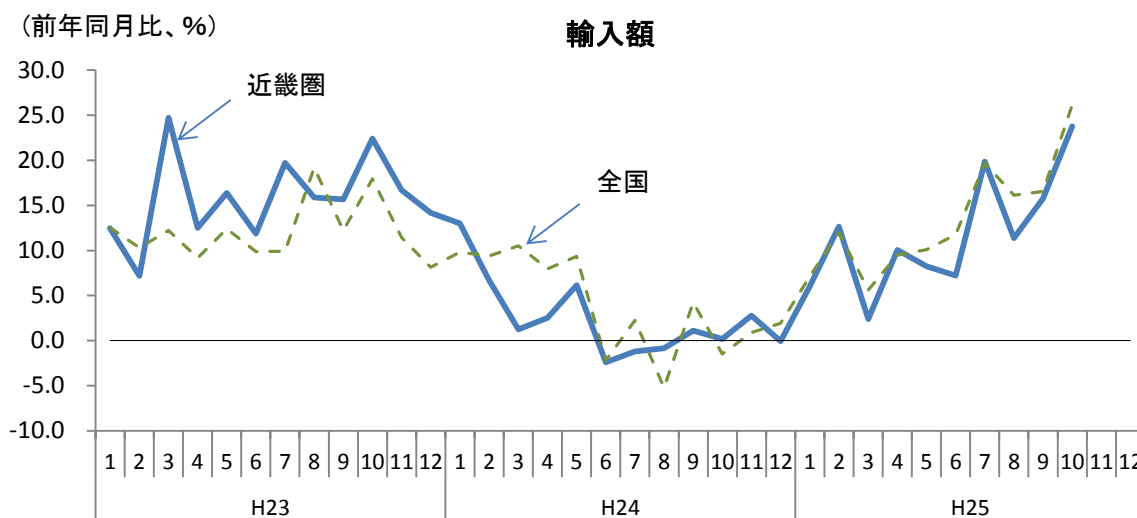
(資料) 大阪税関「貿易統計」

主要地域別輸出額の増減(近畿、前年同月比(%))、10月)

アジア(含む中国)	11.1	8ヶ月連続の増加
中国	13.4	8ヶ月連続の増加
EU	24.4	5ヶ月連続の増加
アメリカ	13.2	10ヶ月連続の増加

[需要] 貿易・貨物

○輸入額【10ヶ月連続の増加。「原油及び粗油」、「天然ガス及び製造ガス」などが増加。】



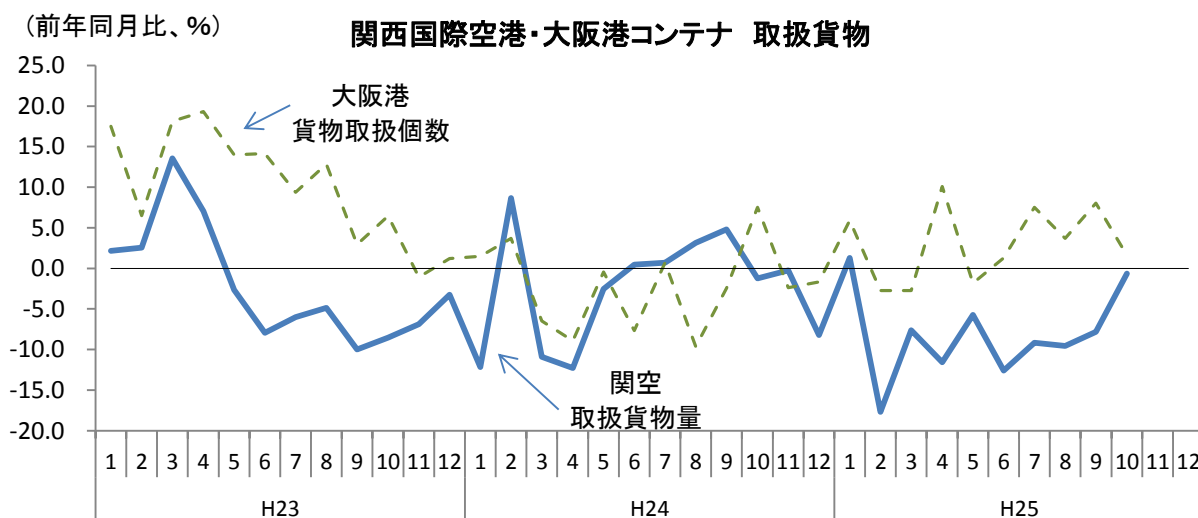
(資料)大阪税関「貿易統計」

		H25年8月	9月	10月	品目別の主な増減 (近畿、前年同月から増減額順、10月)	
輸入額(億円)	近畿	12,492	P 12,870	P 13,950	増加	原油及び粗油、天然ガス及び製造ガス
前年比 (%)	近畿	11.4	P 15.8	P 23.7		衣類及び同付属品
	全国	16.1	P 16.5	P 26.1	減少	石炭、有機化合物、非鉄金属鉱

主要地域別輸入額の増減(近畿、前年同月比(%))、10月

アジア(含む中国)	24.0	10ヶ月連続の増加
中国	22.7	10ヶ月連続の増加
EU	6.6	10ヶ月連続の増加
アメリカ	16.0	2ヶ月連続の増加

○関空取扱貨物量【9ヶ月連続の減少】、大阪港コンテナ貨物取扱個数【5ヶ月連続の増加。】



(資料)新関西国際空港(株)「運営概況」、大阪市「港湾統計」

※関西国際空港貨物取扱量はトン、大阪港コンテナ貨物取扱個数はTEUで、外貿の実入+空の合計。

※TEUとは、コンテナ船の積載能力を示す単位で、1TEUは20フィートコンテナ1個分を示す。

関空取扱貨物量		大阪港コンテナ貨物取扱個数		
	H25年8月	9月	10月	
千トン	52.9	P 56.8	P 59.6	
前年比(%)	▲9.5	P ▲7.8	P ▲0.7	
	H25年8月	9月	10月	
千TEU	P 183	PP 192	PP 200	
前年比(%)	P 3.7	PP 8.0	PP 1.6	

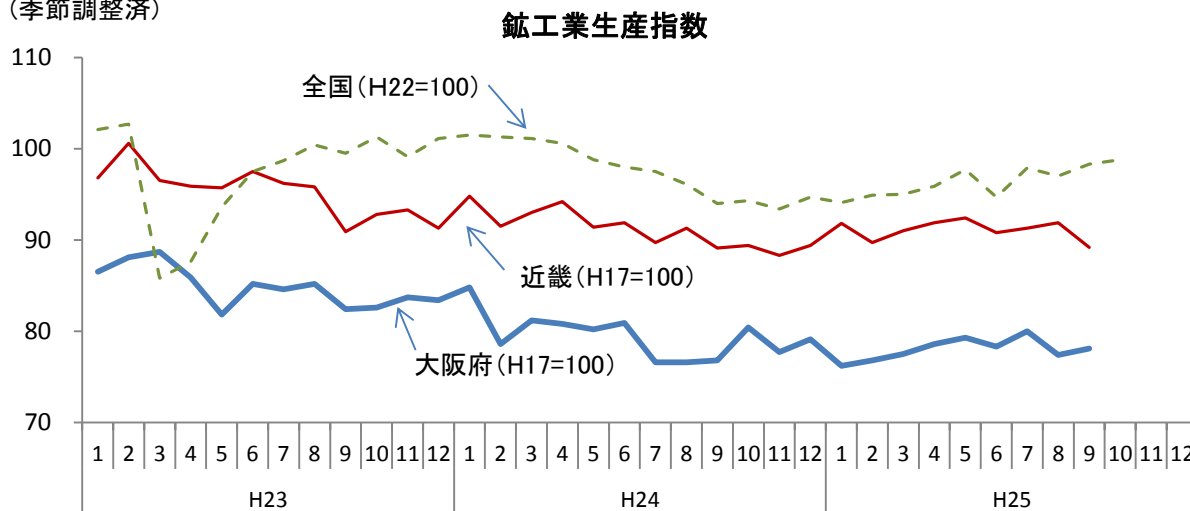
※PPは速報値

[供給] 生産

生産動向は持ち直している。大阪府(9月)は、生産、出荷ともに上昇。近畿の生産(9月)は低下、全国の生産(10月)は上昇。在庫循環は意図せざる在庫減局面。

○鉱工業生産指数【大阪府(9月)は2ヶ月ぶりの上昇。「一般機械」、「食料品」などが上昇。近畿(9月、鉱工業)は3ヶ月ぶりの低下。全国(10月、鉱工業)は2ヶ月連続の上昇。】

(季節調整済)



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数。

季調済	H25年8月	9月	10月
大阪府 (H17=100)	77.4	P 78.1	
近畿 (H17=100)	91.9	89.2	
全国 (H22=100)	97.0	98.3	P 98.8

産業別の主な変動 (大阪府、前月比(%)、寄与度順、9月速報)

上昇	一般機械(2.3):ポンプ、はん用内燃機関 食料品(4.7):砂糖、ビール・発泡酒 鉄鋼(3.4):小形棒鋼、H形鋼
低下	金属製品(▲2.6):橋りょう、一般缶 窯業・土石製品(▲9.4): ファインセラミックス(一般構造材)、板ガラス 輸送機械(▲6.2):シャシー・車体部品、特装ボデー

○鉱工業出荷指数【大阪府(9月)は2ヶ月ぶりの上昇。「一般機械」、「情報通信機械」などが上昇。近畿(9月)は3ヶ月ぶり低下。全国(10月)は2ヶ月連続の上昇。】

季調済	H25年8月	9月	10月
大阪府 (H17=100)	73.9	P 74.5	
近畿 (H17=100)	91.3	89.7	
全国 (H22=100)	95.5	96.9	P 98.6

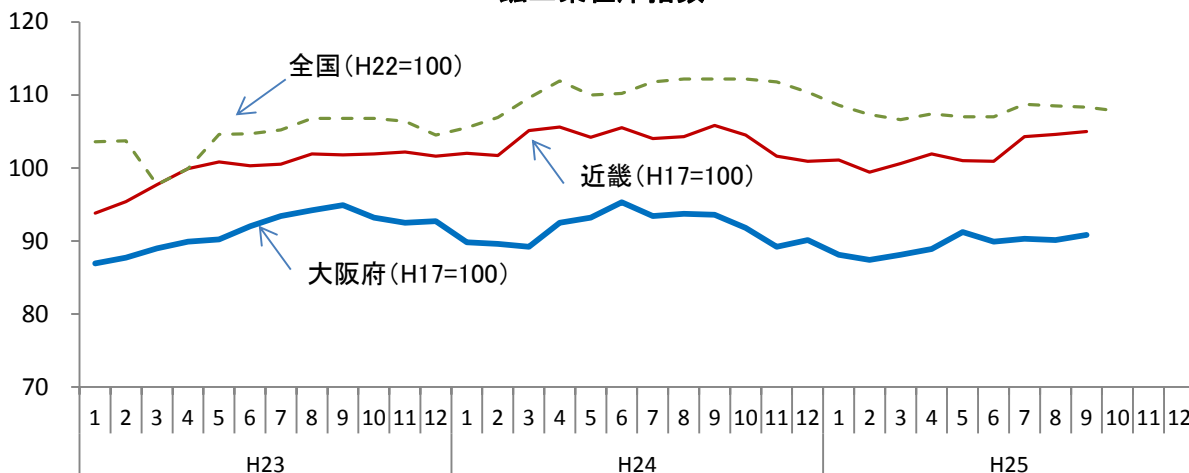
(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数。

[供給] 生産

○**鉱工業在庫指数【大阪府(9月)は2ヶ月ぶりの上昇。「金属製品」、「鉄鋼」などが上昇。近畿(9月)は3ヶ月連続の上昇。全国(10月)は3ヶ月連続の低下。】**

(季節調整済)

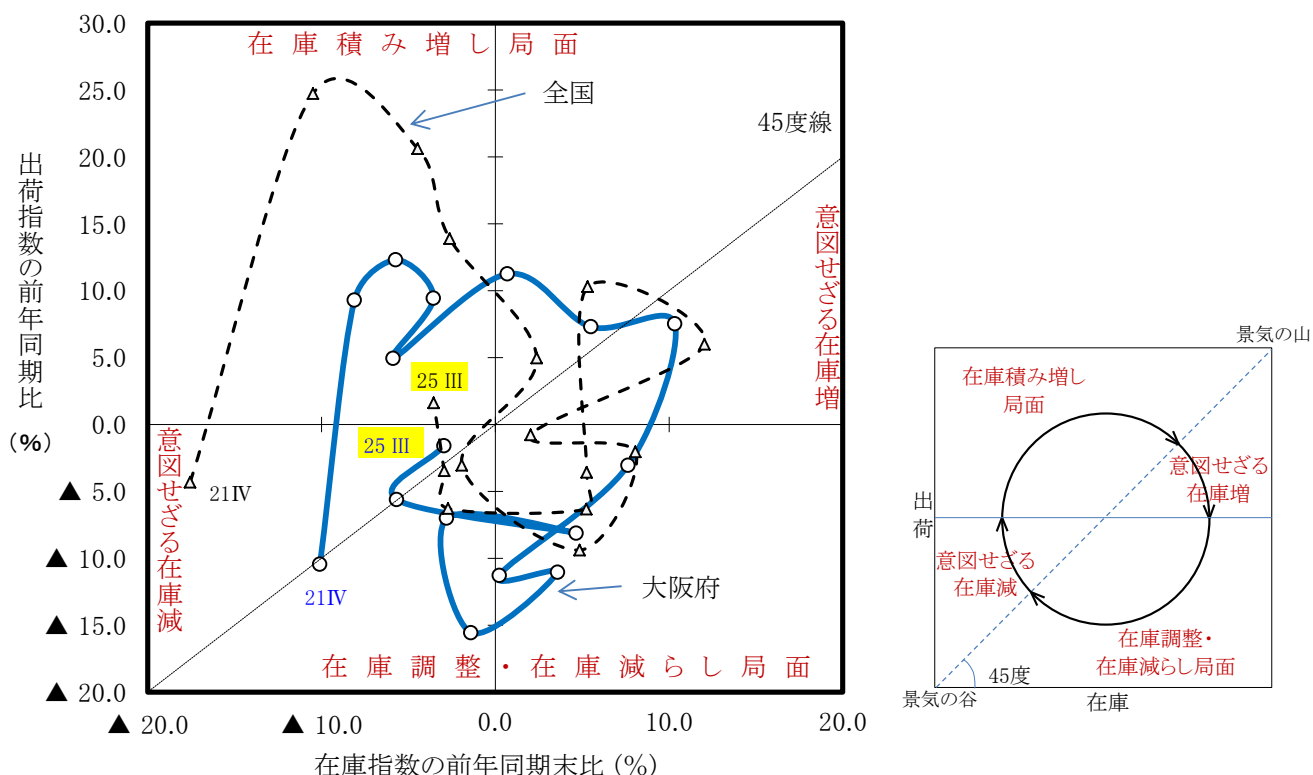
鉱工業在庫指数



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、近畿経済産業局「鉱工業生産動向」、経済産業省「鉱工業指数」
※大阪府は製造工業指数。

季調済	H25年8月	9月	10月
大阪府(H17=100)	90.1	P 90.8	
近畿(H17=100)	104.6	105.0	
全国(H22=100)	108.5	108.3	P 107.8

○**在庫循環図【大阪府は意図せざる在庫減局面。全国は在庫積み増し局面。】**



(資料)大阪府統計課「大阪の工業動向」、経済産業省「鉱工業指数」、内閣府「鉱工業の在庫循環図と概念図」

※出荷指数は原数値の四半期平均、在庫指数は原数値の四半期期末月の数値。

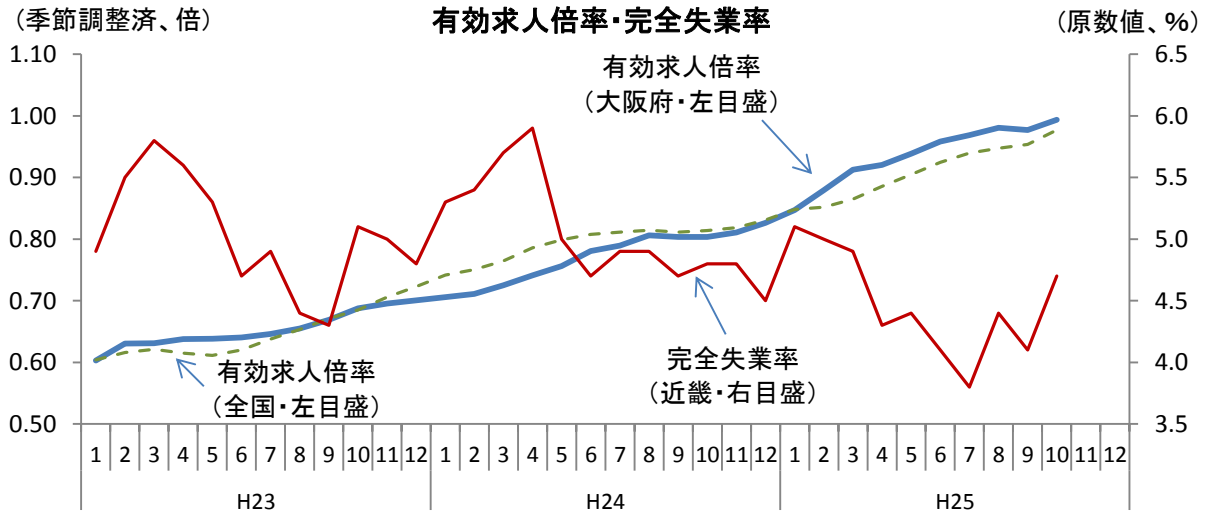
大阪府は製造工業指数。四半期は暦年ベース。

[供給] 雇用・倒産

雇用は緩やかに改善している。所定外労働時間は増加し、近畿の失業率は改善。有効求人倍率、新規求人倍率は、ともに上昇。倒産は、件数は悪化、負債金額は改善。

○完全失業率【近畿は前年同月差で13ヶ月連続の低下(改善)】

有効求人倍率【大阪は2ヶ月ぶり上昇】、新規求人倍率【大阪は2ヶ月連続の上昇】



(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」、総務省統計局「労働力調査」 ※有効求人倍率はパートを含む。

完全失業率(近畿、原数値)

	H25年8月	9月	10月
%	4.4	4.1	4.7
前年同月差	▲0.5	▲0.6	▲0.1

完全失業率(全国、季節調整値)

	H25年8月	9月	10月
%	4.1	4.0	4.0
前月差	0.3	▲0.1	0.0

大阪府、近畿及び全国の完全失業率(原数値、%)

	H25年1~3月	4~6月	7~9月
大阪府	5.4	5.2	4.4
近畿	5.0	4.3	4.1
全国	4.3	4.2	4.0

(資料)大阪府統計課「大阪の就業状況」、総務省統計局「労働力調査」

有効求人倍率(季節調整値、倍)

	H25年8月	9月	10月
大阪府	0.98	0.98	0.99
全国	0.95	0.95	0.98

(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」 ※パートを含む。

新規求人倍率(季節調整値、倍)

	H25年8月	9月	10月
大阪府	1.53	1.60	1.63
全国	1.47	1.50	1.59

若年者の有効求人倍率(大阪府、倍、10月)

24歳以下	1.09
25~34歳	1.08

(資料)大阪労働局「労働市場月報」

※就職機会積み上げ方式、パートを含む

新規求人数の主要産業別の増減

(大阪府、前年同月比(%))、10月)

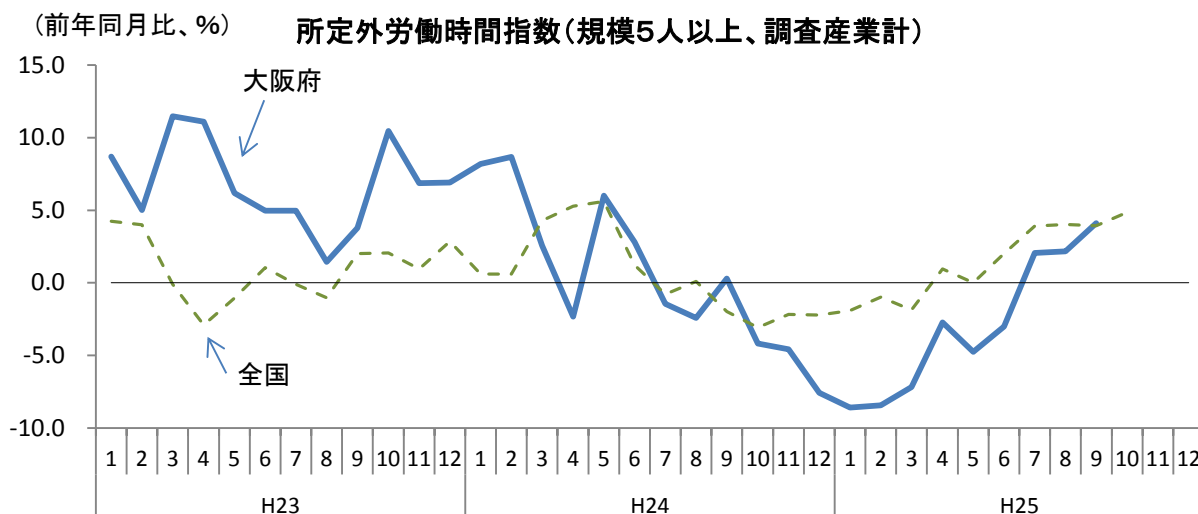
建設業	22.3
製造業	14.4
卸売業、小売業	17.9
宿泊業、飲食サービス業	14.7
医療、福祉	11.0

(資料)大阪労働局「求人・求職状況速報」

※新規求人数の増減は原数値での比較

[供給] 雇用・倒産

○所定外労働時間指数【大阪府(9月)は3ヶ月連続の増加。主に「生活関連サービス業、娯楽業」、「卸売業・小売業」が増加。】



(資料)大阪府統計課「大阪の賃金、労働時間及び雇用の動き」、厚生労働省「毎月勤労統計調査」

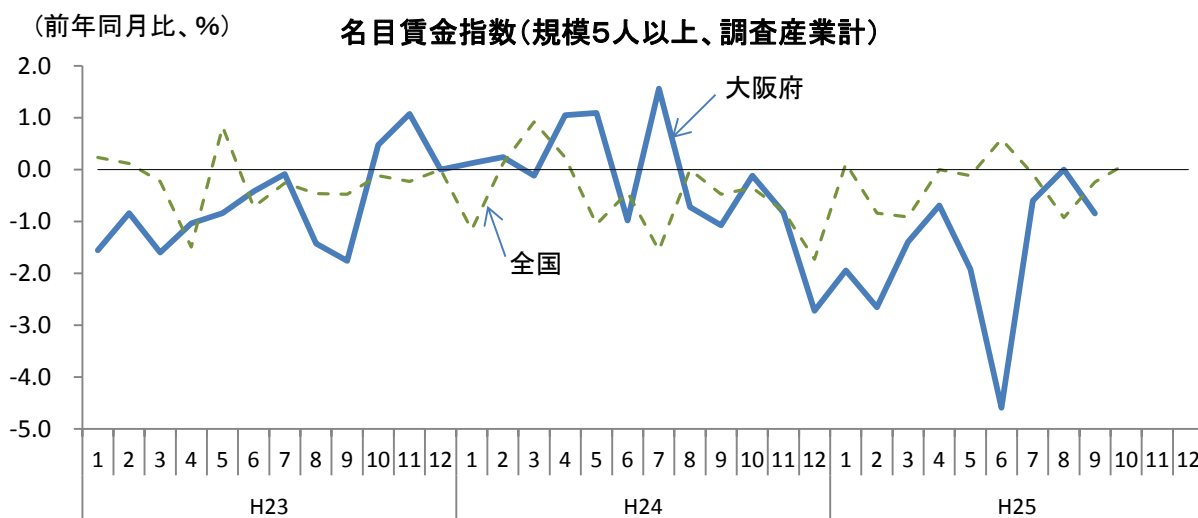
※事業所規模5人以上、前年同月比は労働時間指数(H22=100)による。

		H25年8月	9月	10月
H22=100	大阪府	99.0	106.3	
前年比 (%)	大阪府	2.2	4.1	
	全国	4.0	3.9	P 4.9

産業別所定外労働時間の主な増減 (大阪府、前年同月比(%)、9月)

増加	生活関連サービス業、娯楽業(49.2) 卸売業、小売業(23.8) 医療・福祉(13.9)
減少	教育・学習支援業(▲18.9) 学術研究、専門・技術サービス業(▲14.9) 電器・ガス・熱供給・水道業(▲14.1)

○名目賃金指数【大阪府(9月)は2ヶ月ぶりの低下。】



(資料)大阪府統計課「大阪の賃金、労働時間及び雇用の動き」、厚生労働省「毎月勤労統計調査」

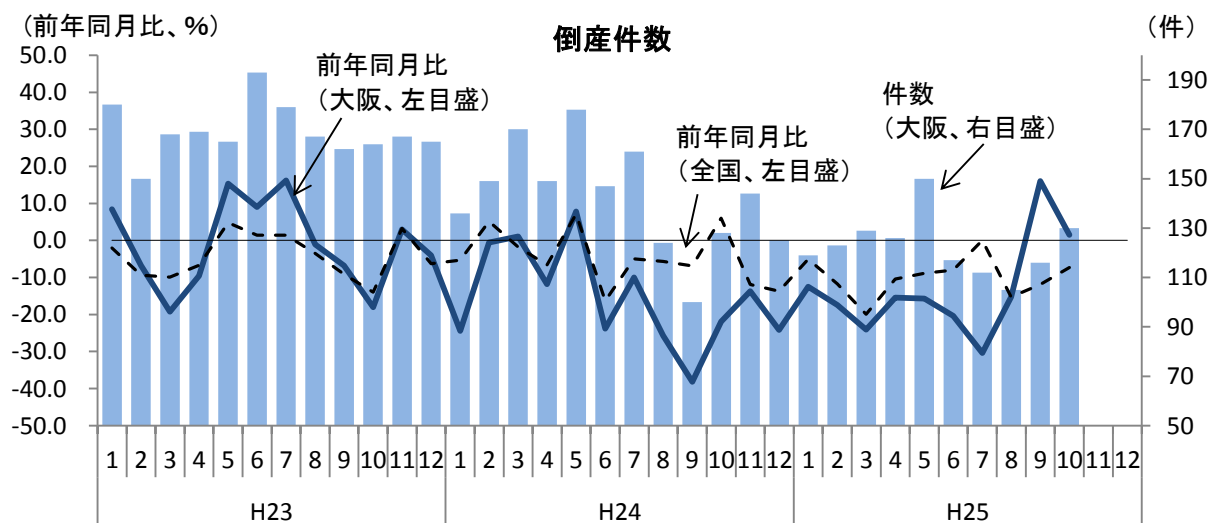
※前年同月比は名目賃金指数(H22=100)による。

		H25年8月	9月	10月
現金給与総額(円)	大阪府	280,107	278,482	
前年比 (%)	大阪府	0.0	▲0.8	
	全国	▲0.9	▲0.2	P 0.1

※前年比は名目賃金指数(H22=100)による。

[供給] 雇用・倒産

○倒産【倒産件数は2ヶ月連続の増加(悪化)。負債金額は3ヶ月ぶりの減少(改善)。】



(資料)東京商工リサーチ「倒産月報」

倒産件数

		H25年8月	9月	10月
件	大阪府	105	116	130
前年比 (%)	大阪府	▲15.3	16.0	1.5
	全国	▲15.3	▲11.9	▲7.3

負債金額

		H25年8月	9月	10月
億円	大阪府	455	390	144
前年比 (%)	大阪府	254.8	393.5	▲18.1
	全国	▲23.2	8.9	▲35.0

主要業種の倒産件数(大阪府)

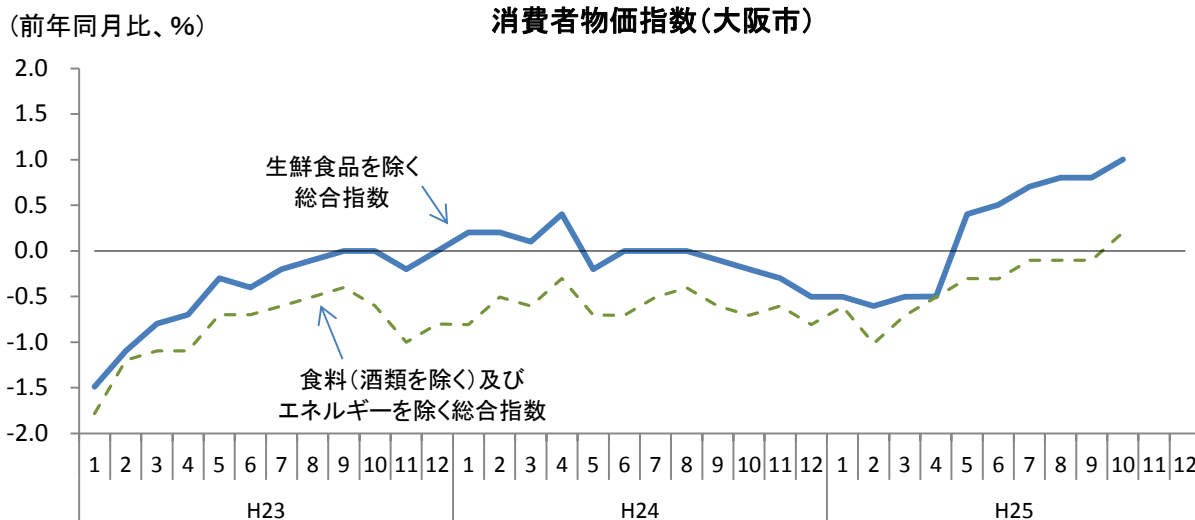
	H25年8月	9月	10月
建設業	21	23	31
製造業	16	24	24
卸売業	17	21	24
小売業	7	10	15
サービス業	25	26	25

主な倒産(大阪府、10月)

業種	負債額 (百万円)	倒産原因
ベビー服・子供服販売	2,941	販売不振
飲食店経営	1,380	過小資本
鋼材加工販売	756	他社倒産の余波

[その他] 物価

○消費者物価指数【大阪市の生鮮食品を除く総合指数は6ヶ月連続で上昇。「光熱・水道」、「食料」、「諸雑費」が上昇に寄与。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は55ヶ月ぶりに上昇。】



(資料)大阪府統計課「大阪市消費者物価指数」、総務省「消費者物価指数」 ※H22=100

生鮮食品を除く総合指数(H22=100)

		H25年8月	9月	10月
指数	大阪市	100.3	100.4	P 100.7
前年比 (%)	大阪市	0.8	0.8	P 1.0
	全国	0.8	0.7	0.9

食料(酒類除く)及びエネルギーを除く総合指数(H22=100)

		H25年8月	9月	10月
指数	大阪市	98.3	98.4	P 98.8
前年比 (%)	大阪市	▲0.2	▲0.2	P 0.2
	全国	▲0.1	0.0	0.3

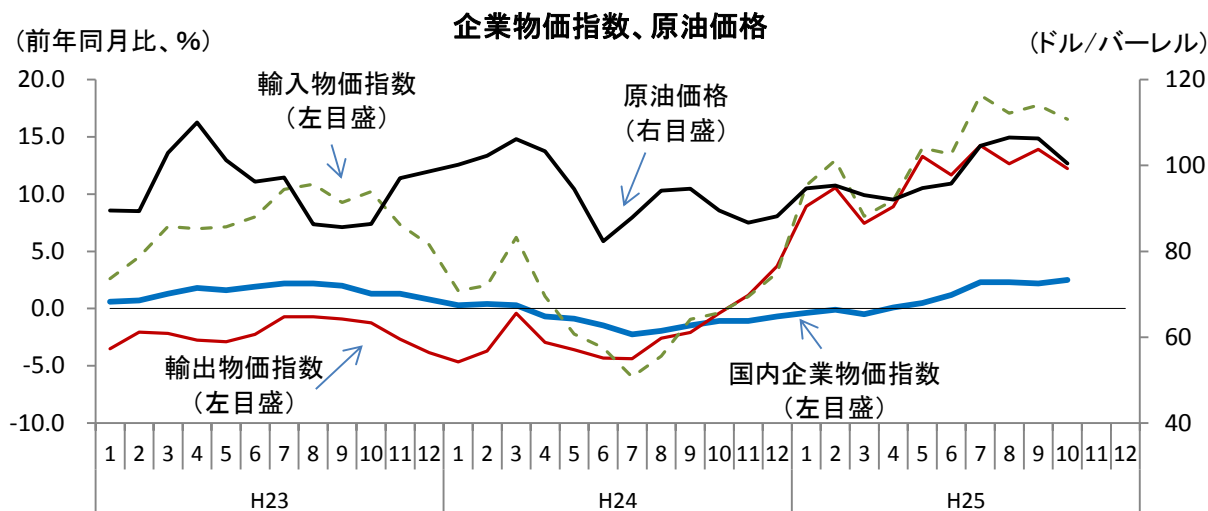
主に変動した分類

(大阪市、前年同月比(%)、寄与度順、10月速報)

上昇	<u>光熱・水道(9.5)</u> : 電気代、他の光熱 <u>食料(1.2)</u> : 野菜・海藻(キャベツ、なす、レタス)、肉類(ソーセージ、豚肉B、レバー) <u>諸雑費(3.9)</u> : 身の回り用品(ハンドバッグ(輸入品)、指輪、腕時計)、他の諸雑費(損害保険料、保育所保育料)
低下	<u>教育娯楽(▲1.2)</u> : 教養娯楽サービス(ゴルフプレー料金、美術館入館料)、

[その他] 物価

○企業物価指数【国内企業物価指数、輸出物価指数、輸入物価指数はすべて上昇。原油価格は下落。】



(資料) 日本銀行「企業物価指数」、IMF「Primary Commodity Prices」

※輸出・輸入物価指数は円ベース。物価指数は H22=100。

企業物価指数 (前年同月比 (%))

	H25 年 8 月	9 月	10 月
国内企業物価指数	2.3	2.2	P 2.5
輸出物価指数	12.6	13.9	P 12.2
輸入物価指数	17.1	17.8	P 16.5

原油価格 (WTI)

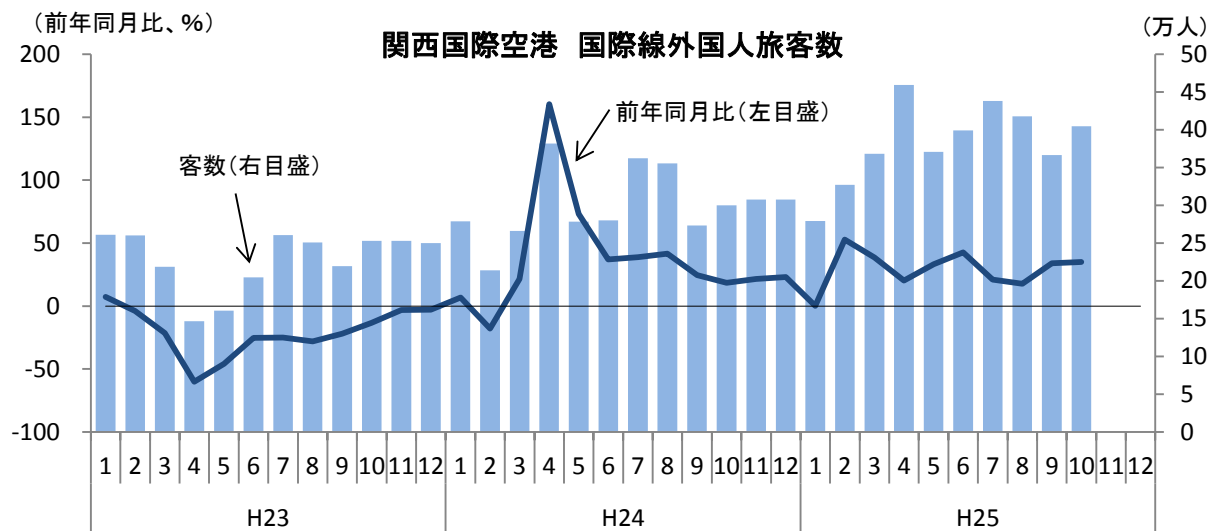
	H25 年 8 月	9 月	10 月
ドル/バーレル	106.55	106.31	100.50

国内企業物価指数の前月比変化に寄与した
主な類別・品目 (10月速報、寄与度 (%))

石油・石炭製品 (0.07) :
軽油、A重油、C重油、ナフサ
鉄鋼 (0.05) :
鉄鋼切断品 (薄板)、小形棒鋼、機械構
造用炭素鋼

[その他] 観光

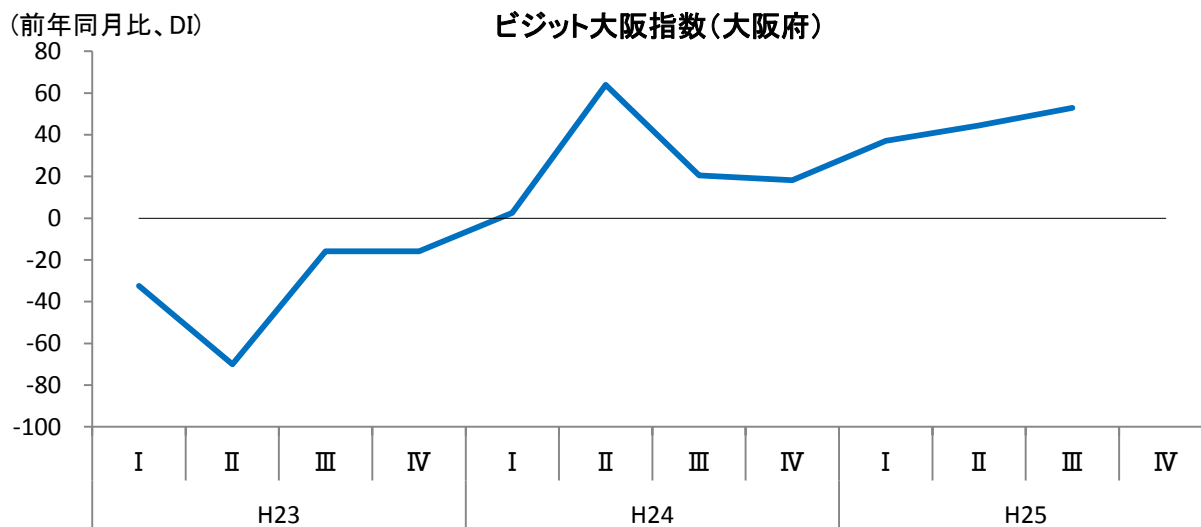
○関西国際空港 国際線外国人旅客数【20ヶ月連続で増加】



(資料)新関西国際空港(株)「運営概況」

	H25年8月	9月	10月
万人	41.8	P 36.7	P 40.5
前年比(%)	17.6	P 34.1	P 34.9

○ビジット大阪指数(DI)【前年同期比で、7～9月期は前回調査より上昇。】



(資料)大阪府都市魅力・観光課「大阪府観光統計調査」

※四半期は暦年ベース。DI:「好調」の割合(%)－「不調」の割合(%)。

	H25年 1～3月	4～6月	7～9月
業況判断 DI (前年同期比)	37.1	44.4	52.9